

正尊寺門信徒会報

平成29年1月発行

第58号

# 正尊寺だより

発行：岐阜県本巣市曾井中島 1592 正尊寺 Tel 0581-34-2018



2014年5月27日 本部委員静岡教覚寺視察



2016年6月3日 設計士によるG L決定



参道から見る法縁廟



法縁廟墓室入口

## 正尊寺法縁廟完成

正尊寺法縁廟ほうえんびやうは平成二十六年三月の本部委員会で任職より提案があり、同年五月には総代八名で静岡教覚寺法縁廟を視察し計画案を策定し、翌年六月の本部委員会で建設が正式に承認されました。

設計は宝珠の門徒で、田園計画設計工房という土木環境調査を主とされる遠山泰正設計士を通して、浜松市造園設計家の前原浩設計士に本設計をお願いしました。

正尊寺境内の中に自然と溶け込み、違和感なく参詣の皆さんからも手が合わさるような外観を保ちながら、千体のお骨箱が安置できる密閉スペースと土に帰す放骨スペースを兼ね備え、地震などの自然災害や経年劣化の少ない建物になるよう設計依頼しました。

また、法縁廟前には子どもが落ちてでも惨事にならないような深さの池を作り、睡蓮を見ながら太鼓橋を渡ってのお参り、お浄土を憧憬できるような環境を整えて欲しいともお願いしました。

昨年二月には市役所に提出した納骨堂経営許可申請も受理され、門徒でもある大野町三田畑の松井石材さんによって着工となりました。半地下の墓室は水没することが無いように排水レベルが全てに優先でした。土塀基礎の下に排水パイプを通すことができ、設計図面以上に収まりの良い墓室ができ、シンボルになる黒御影の石材は中国で、仏足石はインドでそれぞれ加工して海を渡って運ばれてきました。

樹木の移植はせず、墓室入口階段は設計図面上コンクリート製でしたが、松井さんのご厚意で立派な石組みで、本堂側から眺めても良い庭園になりました。



インドから送られた仏足石

正尊寺法縁廟の基本コンセプトは『俱く会えい一いつ処しょ』です。この世の縁が尽きても再びお浄土で会う世界があります、安心して日々の生活ご恩報謝で過ごしましょうと、仏説阿弥陀經に説かれています。  
前住職が杉山家墓石に揮毫した『俱会一処』を写し、横書きにして廟の中心に据えました。花立て石には寺紋向鶴を浮き彫りにし、正尊寺門徒皆のお墓であることを表しています。そして参拝順路には、お釈迦さまを表す『仏足石』も鎮座しています。



工事の最後に仏足石設置

参道横には黒御影の銘板石が置かれ、ステンレスの名札には法縁廟に集う人の名前が書かれて、この方の墓所であることがひと目で分かります。



参道に設置された銘板石



レーザー焼付された名札

睡蓮池の水は本堂大屋根に降った天水を流し込んでいます。池の底には白い天然ゼオライトが敷き詰められ、水の浄化をさせています。夏にはハスが咲きにぎやかになります。

法縁廟の墓室(納骨室)は二辺四方、厚さ二五センチの鉄筋コンクリート作りと地中を掘った放骨室があります。頑丈なステンレス製扉の納骨室は蓮如上人真筆六字名号を本尊として、ステンレス製の納骨棚には規定の納骨箱が一千個納められ、正尊寺が統



墓室内のご本尊と納骨棚

く限り護られていきます。  
骨箱は一辺で、関東の全収骨や墓地改葬での入りきらない遺骨は、放骨室へじかに納め土に帰します。

法縁廟に納骨されますと、納骨者銘板に俗名か家名のスチレンス名札を付け、それぞれの墓所である事を後世に残します。納骨者は全員法縁廟法名録に記載し、墓内に奉安いたします。  
法縁廟への納骨は随時で、毎年八月十六日にお盆法縁廟総追悼法要として法座を行います。

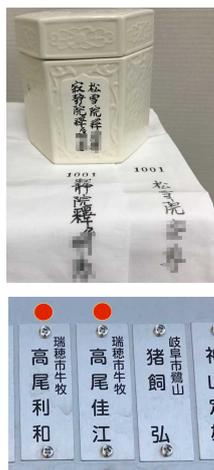


専用六角納骨箱と骨袋

## 納骨冥加金について

・全納骨 一体三〇万円  
一般のお墓を持たず、全ての遺骨を法縁廟に預ける場合、骨箱1つとプレート1枚、個人の名前か〇〇家という標記になります。

夫婦・親子など1つの骨箱に複数名納める場合は1名一〇万円の追加でそれぞれの名前プレートがつきます。予約も可能で、プレートは生前に作成し並べて銘板に付けることもできます。ご夫婦の場合三〇万円+一〇万円で四〇万円の懇志となります。



## ・分骨納骨 一体五万円

墓地を持ちながら、正尊寺法縁廟にも納骨ご希望の場合は小型の骨箱に法名を記して納骨できます。  
銘板プレートも付いています。

なお、正尊寺法縁廟は京都大谷本廟の代わりではありませんが、ご本山とは別の分骨納骨です。



※ 正尊寺法縁廟は当初懇志だけで年間会費や管理料など不要です。



焚焼されるお位牌

お釈迦さまが入滅されたのは二月十五日満月の日だったそうです。この日を涅槃会とよび、お釈迦さま入滅の様子を描いた涅槃図を余間に掛け、法要をお勤めしてきました。今年からは若い方々にもご縁に遇ってもらいたいと、休日にお勤めすることになりました。



正尊寺涅槃図

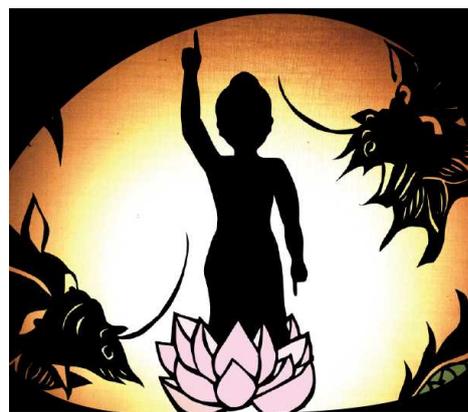
二月十九日 午後一時半より  
涅槃会



去る十一月四日、本願寺第二十五代專如御門主伝灯奉告法要に中川北組

### 伝灯奉告法要団参

今回は、法縁廟の完成落慶法要も兼ねてお勤めし、絵解き法話でなく京都から、影絵法話『ともしえ』メンバーに来てもらいます。例年どおり法要の最後には、白木お位牌などのお焚き上げもします。ご家族揃ってお参りください。



「ともしえ」の影絵法話

六名の正尊寺門徒は特別公開中の飛雲閣に特別呈茶接待を申し込んでおられ、京都三名閣随一の国宝飛雲閣の中のお座敷で、太閤気分でお抹茶接待を受けておられました。午後一時入堂開始となりましたが、クジ運良く御影堂のほぼ真ん中の席御門主様や五歳に成られる新門様に間近でお参りすることができました。



からバス十一台四一八名での団参、正尊寺はバス二台八八名で快晴の京都本山の参拝となりました。朝七時半正尊寺出発、名神多賀サービスエリアで中川北組全車集結、遅延するバスもあり、多少遅れて出発となり本山到着は十一時をかなり回っていました。記念写真を撮り、北境内地の仮設食堂でお弁当を食べ、しばらく自由時間がありました。このフリータイムの有効活用で二十



法要も終わり帰りには、北境内地からバスに乗り込み出発すると、バスを見送る列の間に、新門様とお裏方が出発するバスに手を振ってお別れをしてみました。かつては、職員が見送りに手を振っている姿はありましたが、新門様に見送ってもらえるとは思っても及ばず、皆さん大いに感動しておいででした。伝灯奉告法要は三月からあと五十日勤まります、当日受付の席もあるようです、お時間ある方は是非ご本山へご参拝ください。

### 感謝

- ◎ 若院用頭座色衣 寺内 小川賢司様
- ◎ 若院用頭座夏色衣 下長瀬 松井和男様
- ◎ 若院用頭座切袴 加納 青山 修様

# 二十九年報恩講厳修

今年の冬はおだやかで暖冬気味でしたが、報恩講を向かえるといきなり寒波が押し寄せ、久しぶりの雪の御正忌報恩講となりました。

雪が降ろうとヤリが降ろうと、正尊寺報恩講は五〇〇年以上門徒衆の手によって勤め続けられて来ました。今年も十一日のおみがきから始まって、十二日お華束盛り、十三日準備と門徒大勢の方々に調えられてきました。



あいにく十四日の法要初日から雪に埋まりましたが、大勢の参拝でにぎやかにお勤めすることができました。今年のお取り持ちは法林寺・山口・西ノ門の門徒皆様で、献身的にしか

も楽しそうにご奉仕をしていただきました。お取り持ちありがとうございます。



お華束は餅米と米粉を合わせてついで、丸形に抜き積み上げ食紅で彩色したお手間入りです。焼いたり揚げたりしてお下がりをお味わいませう。



三日がかりで作られたお華束

# 十三参り参加者募集

人数を制限し、先着十名での開催となりますが、まだ締切人数には達しておりませんが、お早めに申込ください。

正尊寺十三参りは小学校卒業時のお子さんなら男女を問いません。

参加費 三〇〇〇円

着物を着なければいけないという決まりもありますが、干支一巡人生節目のお参りですから、普段着でなく学校の卒業式にでるときの装いで出席してください。

なお、着物袴の貸衣装は衣装屋さんの紹介(女子用一式一万円程度)もしますので、事前にご相談ください。**参加希望の方はお寺までご連絡下さい、申込用紙をお渡しします。**



前号の正尊寺だよりも紹介しました、「十三参り」は**初参式の手形**も返却し、参加者やご家族からは感動の喜びを頂いております。今年もお彼岸の中日**三月二十日(祝)**午後一時〜二時で行います。ただし、式を厳かに行うために参加



「あきも」の二部式の袴セットを着せてもらう参加者

あきも